

## オイルパステルとの出会い

有元 康人

2011年テニス仲間から、絵画教室に誘われたのが出会いです。その人も、絵画を習うのは初めてで、一緒に習う仲間を求めており、私に話が来しました。

私の絵の経験は、中学生の一時期、遊びで似顔絵を鉛筆で画いたことがあります。その時以外は絵を画こうと思ったことはありません。不安もありましたが、リタイヤ後は、縁があれば何にでも挑戦してやろうと思っていたので、一緒に松浦教室に通い、習い始めました。

松浦先生は、絵画人口の少ない、オイルパステルを、世の中に広めたいと活動しておられ、日展に巨木の絵で10年連続入選している先生です。私は良い指導者に会ったと思っています。

オイルパステルとは、初めて聞いた画材でしたが、小学生の時に使っていた、クレヨンやクレパスのことで、この2種類はメーカーの商品名、正式名称がオイルパステルです。

教室で最初に画いたのは、ジャガイモの絵で、これは、ジャガイモの絵ですよと説明しないと分からないような駄作でした。

最初の2年間(月2回、13時から4時間)静物画(花や置物)や石膏デッサン、屋外の写生等を行っていましたが、帰りには疲労でグッタリ。構図ができない、画用紙に色が載せられない、まったく先が見えない日々でしたが、何とかなるものです。ある日の教室で、あまり深く考えないで、思いつく色を何種類か画用紙に乗せ、紙の上で色を作っていくと、深みのある色ができることに、気が付きました。

教室の作品展(2013年)に「沖縄のシダ」を出したとき、現代パステル協会の委員の方が来られ、ほめてもらいました。さらにこの作品を現代パステル協会展に出展するよう指導され、初めて翌年の公募展に出しました。



その(2014年)現代パステル協会展で会友に推挙されましたが、推挙の連絡が入った時には、会友とは何ですかと聞き直すような、絵画の常識がない自分がいました。

その後、「ザリガニ釣り」「花蓮」「雨上がりの沖縄」「足湯」を毎年出展、2018年には「奥入瀬の秋」で会友から準会員を飛び越え会員に推挙され、少しずつですが、前に進んでいるのかなと、思っています。



絵画を始めて残念な出来事は、松浦国樹先生が、すい臓癌(がん)で急死されたことです。

今は何人かの生徒が集まり、勉強会を月2回行っています。

会員になりましたが、まだ賞が取れません。何か別な発想が必要と思っていますが、どうしたら良いのか?

奥が深い趣味に出会え、集中して取り組むことができ、これからもライクワークとして励んで行こうと思っています。